

●神経発達症（発達障害）

神経発達症は脳の働き方の違いにより、物事のとらえかたや行動のパターンに違いが生じ、日常生活に支障のある状態です。自閉スペクトラム症や注意欠如・多動症などが、該当します。

自閉スペクトラム症は、「社会的コミュニケーションと対人的相互反応における持続的な障害」と「行動、興味、または活動の限定された行動様式」の2つを診断基準とする神経発達症です。人とコミュニケーションを取るのが苦手だったり、何かに異常にこだわったり、感覚が過敏であるという特性がみられます。

自閉スペクトラム症は生まれつき脳の機能に何らかの不具合がある障害です。子どもの特性に合わせた環境調整や療育などによって困り事を軽減していくことを目指します。

注意欠如・多動症（ADHD）は、不注意さや落ち着きのなさ、考えずに行動にうつす特性があります。そのため、日常生活や集団生活、コミュニケーションにおいて難しさを感じる場合があります。

治療は、環境調整やソーシャルスキルトレーニングなどの療育と薬物治療を組み合わせで行います。ADHDの主な治療薬は現在4種類あり、うまく付き合うことで不注意、多動性・衝動性を軽減する効果が認められています。しかし、食欲がなくなる、夜眠れなくなるなどの副作用も確認されており、医師としっかり相談することが必要です。

ご家庭で育てにくさを感じたり、集団生活での過ごしにくさを感じられる場合や、お子さんご本人がしんどさを感じられている場合は、悩まずにご相談いただきたいと思います。

受診の際は、親子手帳や成育歴の分かる資料等もご持参ください。